

中野区  
初期消火機器操法大会  
スタンドパイプ操法  
実施要領

中野区町会連合会

平成30年7月作成

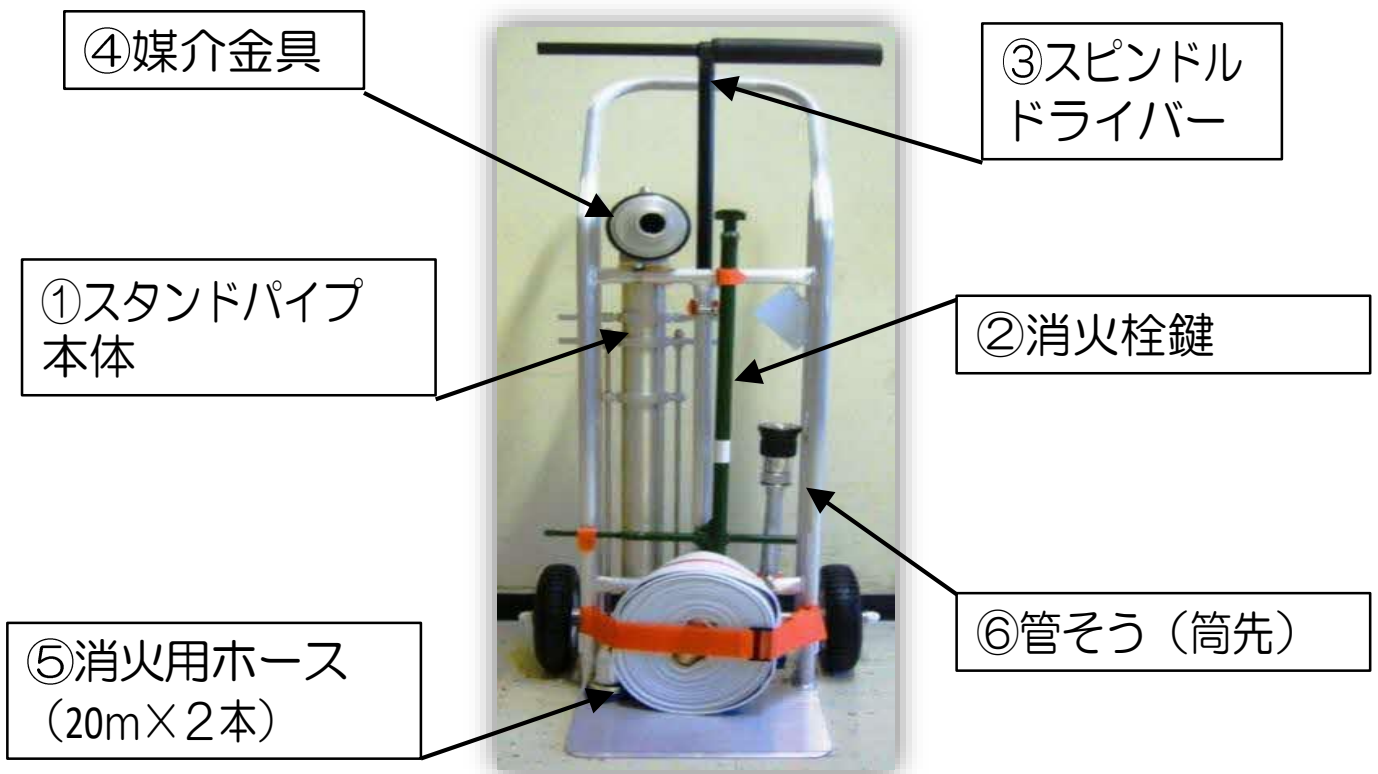
令和5年9月全面改定

# 中野区スタンドパイプ操法 実施要領

## 1 スタンドパイプとは

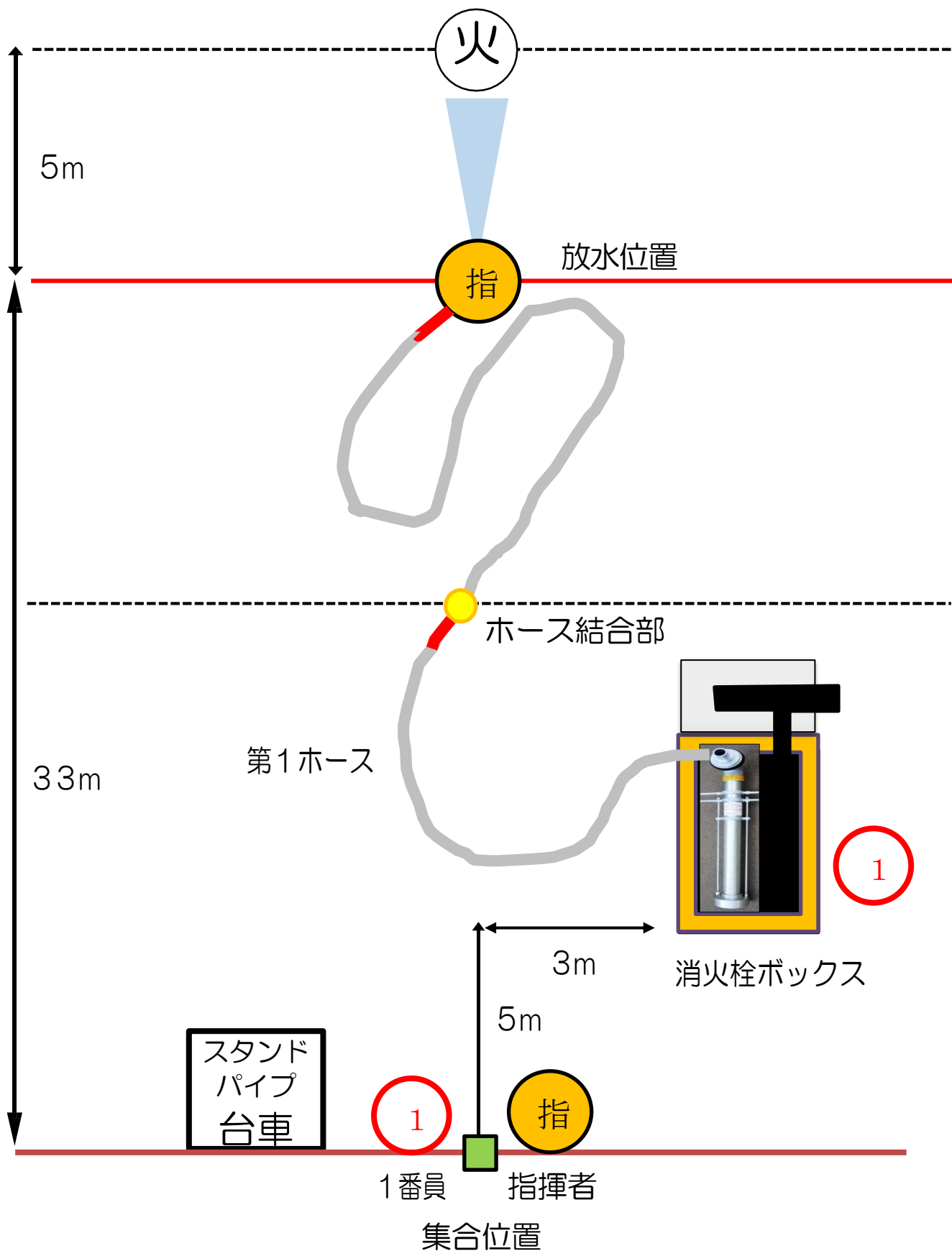
スタンドパイプは、消火栓から毎分100ℓ以上の放水ができる消火用資器材です。軽量で操作が簡単であり、特に消防車両が進入できない狭い道路の地域や木造住宅密集地域での火災に有効です。

①スタンドパイプ本体の他、②消火栓鍵、③スピンドルドライバー、④媒介金具、⑤ホース、⑥管そう（筒先）で構成されています。



## 2 操法の概要

2人1組でスタンドパイプを活用した放水を行い、審査員が各員の操作要領、動作等の行動全般について審査します。



### 3 操法の流れ

#### 1 入場待機



係員から合図があったら、実施者待機位置から集合位置に移動します。スタンドパイプの台車をセットし、写真のように待ちます。

訓練開始前までに手袋、ヘルメットをしてください。

#### 2 訓練開始から資器材設定まで



① 指揮者は開始準備が整ったら、係員に対し、「〇〇町会（〇〇中学校）、訓練準備できました。」と報告します。

② 係員の「火災発生」の合図で訓練を開始し、「火事だあ」等の掛け声により近くにいる人に火災を知らせます。

指揮者は、1番員にスタンドパイプを運ぶように指示し、消火栓の位置を確認します。

1番員は指揮者の指示で、消火栓の近くにスタンドパイプの台車を運んできます。



### 3 スタンドパイプ設定



指揮者と1番員が協力して、資器材を取り出します。

指揮者は、消火栓の蓋が倒れるのを防ぐため、1番員が蓋を開けたら、すぐにスタンドパイプを設定し、一度上方向に引っ張って確実に結合されているかを確認します。

蓋を開ける時は、足を挟まないよう足の位置に気を付け、膝を曲げて腰を低くする等、腰を痛めないように注意してください。

### 4 ホース確保→ホース延長



- ① 1番員は、周囲の安全をよく確認し、スピンドルドライバーをゆっくりと操作して水が出るか確認します。

指揮者は1本目のホースを延長し、スタンドパイプに結合します。結合後は一度引っ張って、確実に結合しているかを確認してください。

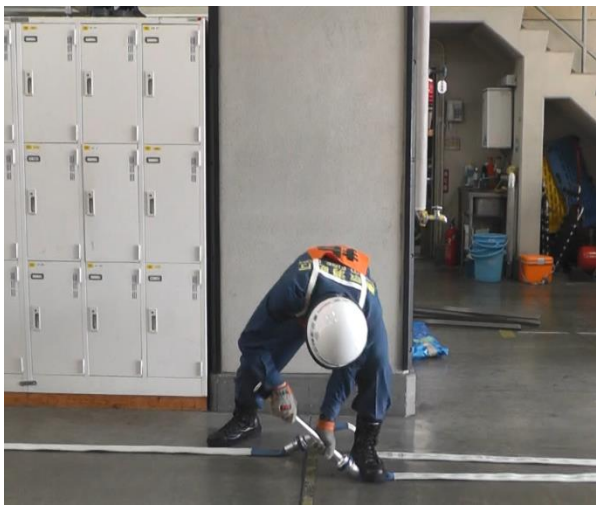


- ② 指揮者は、ホース延長時に消火栓に差し込んだスタンドパイプが引っ張られて壊れないよう1番員にホースの確保を指示します。1番員がホースを確保したことを確認後、ホース延長を実施します。1番員は、ホースが引かれなくなるまで確保してください。

## 5 2本目のホースを延長、管そうを結合

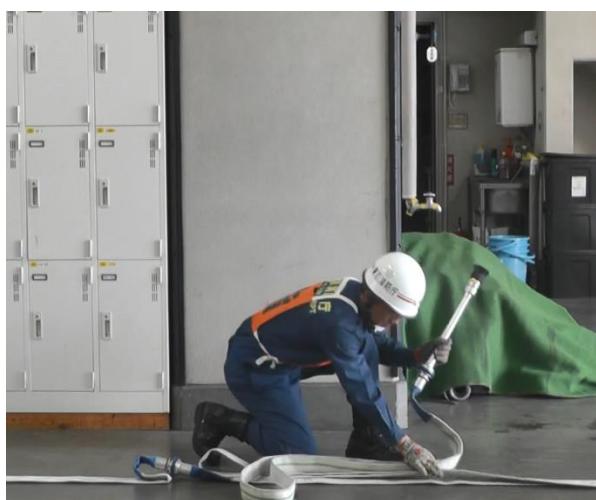


① 指揮者は、1本目のホースを延長後、2本目のホースを延長し、ホースとホースを結合します。結合後は、しっかりと結合されているか確認しましょう。



② 指揮者は、ホースとホースを結合した後、2本目のホースに管そうを結合します。結合後は管そうが抜けないうえ、引張って確認しましょう。

## 6 ホース整理⇒余裕ホースをとる

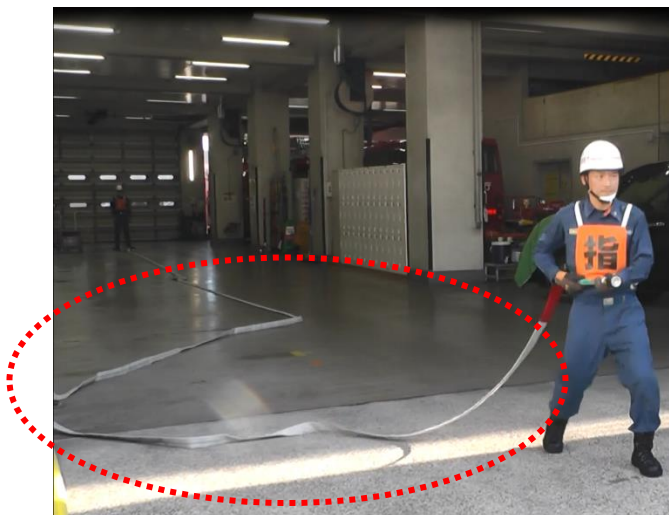


余裕ホースをとるため約2メートル分のホースを取りますが、この際立った状態で動きながら余裕ホースを取って行く場合は転倒に十分注意してください。なお、管そうを結合した場所で余裕ホースを取りきった後に動き始めると、転倒等による受傷を防ぐことができます。



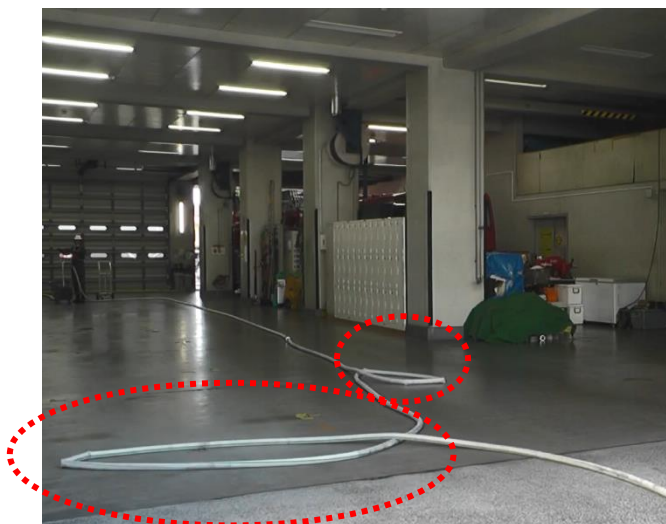
ホースに水が送られてくると水圧で体が振られたり、管そうを離してしまう危険性があります。それらを防止するために、余裕ホースを自分よりも後ろの位置にとり管そうをしっかりと持ちましょう。

### ★余裕ホースをとる際の注意ポイント



#### ポイント①

余裕ホースは自分が放水する位置の後ろにとりましょう。余裕ホースを自分より後ろにとることで反動力（後ろに引っ張られる力のこと）を抑えることができます。



#### ポイント②

ホースが折れ曲がっていると十分な圧力で放水できません。

ホース整理時は、できるだけホースが折れ曲がらないように延長してください。また、できるだけ速く放水しようとして火点に近づき過ぎないように注意しましょう。

## 7 放水開始



- ① 放水開始は、「放水はじめ！」の発声とまっすぐに伸ばした腕で1番員に確実に伝えます。

放水時の反動力に気をつけて、合図を送ったら管そうをしっかりと腰に当て放水に備えます。

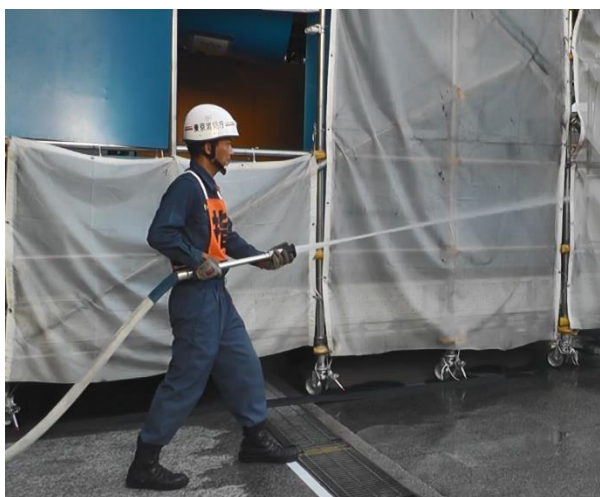
※実際の現場で建物等に隠れて相手が見えない場合は、誰かに合図を伝えてもらいましょう。やむを得ない場合を除いて、放水担当者は管そうを地面に置いて離れる等の行動はしてはいけません。

- ② 1番員は指揮者の「放水はじめ！」の合図を確認後、同じようにまっすぐに腕を伸ばし「放水はじめ！」と合図します。

スピンドルドライバーの操作は、指揮者が放水による反動でケガをしないようゆっくり行います。また、トラブルに対応できるように消火栓から離れないようにしてください。

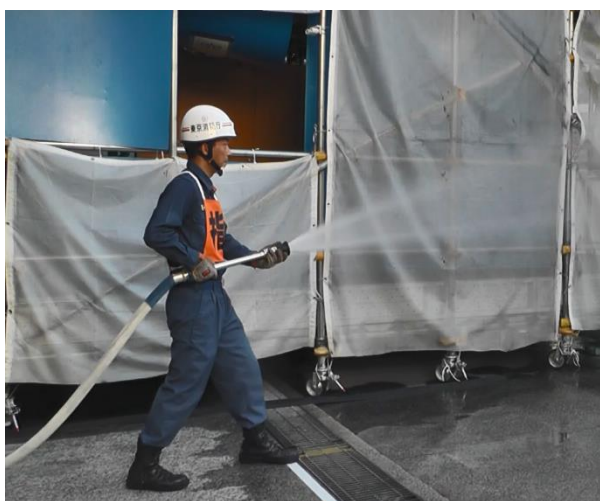


## 8 ストレート注水・スプレー注水を実施



ストレート注水

放水を開始したら的に向けて、ストレート注水で5秒間放水し標的を倒します。的が倒れた後、係員の「スプレー注水！」の指示でノズルを操作し、展開角度30度のスプレー注水を5秒間実施後、係員の「放水やめ！」の合図で放水を停止します。



スプレー注水

### ポイント

水圧による反動力でバランスを崩さないよう、放水が終わるまでしっかりと管そうを保持します。

管そうは的に向け、腰の位置でしっかりと保持します。前傾姿勢をとり、反動力を抑えます。

## 9 放水停止



- ① 放水停止時は、ゆっくりと管  
そうを閉鎖し、安全を確保した  
後に「放水やめ！」の発声と真  
横に伸ばした腕で確実に伝えます。

1番員が合図を受けたか確実に  
確認し、送水を停止した後に  
水抜きを実施します。



- ② 1番員は指揮者の「放水や  
め！」の合図を確認後、自らも  
真横に腕を伸ばし「放水や  
め！」と合図を返します。

スピンドルドライバーによる  
放水停止の操作はゆっくり行い  
ます。1番員は、完全に送水を  
停止した後、真横に腕を伸ばし  
「閉鎖よし！」と合図します。

## 10 終了報告



指揮者と1番員は駆け足で集合  
位置に戻ります。指揮者の「〇〇  
町会（〇〇中学校）、訓練を終了  
しました。」の報告で訓練が終了  
となります。

## ★ 放水種別について（資料）



ストレート注水

### 【用途】

- ⇒射程が長く、接近できない場合に有効
- ⇒破壊力が強く、落下物を払い落とす場合に有効
- ⇒広範囲を消火する場合は、上下左右に振り回して拡散させる

### 【特性】

- ⇒目標物に対して命中しやすい
- ⇒反動力が大きく、方向転換や移動しながらの注水が難しい
- ⇒障害物があると、注水範囲が狭くなる

### 【注水要領】

- ⇒しっかりとした足場の場所で行う
- ⇒管そうをしっかりと保持する
- ⇒管そうの急激な操作を行わない
- ⇒燃焼実体に注水する



30度スプレー注水

### 【用途】

- ⇒燃えている物に接近できる場合、注水範囲が広いため消火に有効
- ⇒延焼しそうな建物へ広範囲に注水することで、延焼阻止に有効

### 【特性】

- ⇒ストレート注水より注水範囲が広く反動力が少ない
- ⇒射程が短く、破壊力は弱い

### 【注水要領】

- ⇒展開角度は、10度～30度
- ⇒管そうの持ち方は、ストレート注水と同じ要領である
- ⇒目標物に消火水が直接到達する位置で、覆うように注水する

